日本人のおなまえっ！

日本がわかる名字の謎

NHK番組制作班・編
森岡浩・監修

集英社
インターナショナル

まえがきにかえて――

お名前の大海原から見えてくる日本人の原風景

善は人間の存在の維持に役立ち、活動能力を増大、促進させるものである――オランダの大哲学者、バールーフ・デ・スピノザは著書『エチカ』のなかで善をこう定義しています。といっても、スピノザの『エチカ』自体を読んだのではなく、『100分de名著』を観て知ったんですが、私が思ったことは……ご先祖さまたちの智恵が込められた名字、お名前は、スピノザの言う善ということです。

たとえば、いま黒という色には、ブラック企業のように悪いイメージがあります。

しかし、もともと日本では黒は悪いイメージばかりではなかった。黒の語源は「くらい」。それに中国から伝わった「黒」という漢字を宛てたわけですが、その漢字に悪い意味も含まれていた。

「白黒をつける」という慣用句は、もともと囲碁の白黒からきていて、勝負をつける、雌雄を決するという意味です。一方、「黒白をつける」という言葉もありますが、黒白を音読みするように、やはり中国から入ってきたもので勝ち負け、善悪の意味合いが強いと考えられます。素人、玄人も、囲碁の白（白人）黒（黒人）が語源とされますので、むしろ黒のほうが強いわけです。

また、日本人には黒を神聖な色としてきた歴史もあります。大阪・住吉大社の神事で使われている

鯨幕。白と黒の縦縞ですが、黒は神様がいる異界を意味する神聖な色です。京都・檀王法林寺の黒い招き猫。夜を司る神、主夜神尊のお使いが霊力の強い黒猫とされているんです。同寺の聖なる招き猫伝説は、日本最古のものです。つまり、もともと、招き猫は黒かったのかもしれません。

また、黒いカラスは不吉な鳥と考えられがちですが、広島・厳島神社にはカラスが建立場所の道案内をした「神烏伝説」が残っています。さらに、三本足の八咫烏はサッカー日本代表のユニフォームのエンブレムでお馴染みですが、日本神話で神武天皇東征の道案内をした、神聖な鳥です。黒のつく名字が多いのは、ご先祖さまたちが黒にいいイメージを持っていたからこそです。戦国武将の鎧、甲が黒いものが多いのは、黒には強いというイメージがあったからでしょう。

鬼、悪も強いという善のイメージで名字につけられたわけです。

毒島さんの「毒」にしても、薬という善の意味合いで使われています。

ちなみに、赤木野々花アナウンサーの赤木姓は、森岡浩先生によると、主なルーツは九州と岡山。そのうち、岡山の赤木姓の由来ははっきりしているそうです。信濃国赤木郷（現・長野県松本市 寿小赤赤木）に住んでいた桓武平氏出身の武士が赤木姓を名乗り、鎌倉時代に岡山に移って、戦国時代まで有力武士だったという。もともと地名由来の名字なわけですが、赤木郷の由来になった赤い木は、日本人は紅葉の色をすべて赤としていたので、いまの赤ではない可能性のほうが高い。ところが、このことは謎のまま残っています。

しつこいようですが、古舘の「舘」は「館」でも「舘」でもなく、左が「舎」の舌偏の「舘」です。校舎、学舎のように「舎」自体に「舘」という意味がありますから、わざわざ「舘」にしたのは何らかの意味があると思います。草薙剛さんの「薙」のような物語があるといいんですが……。この番組のスタッフはものすごく優秀ですので、赤木郷という地名の謎も含めて、いずれ解明してほしいところです。

２０１８年４月から、『日本人のおなまえっ！』は人間のお名前だけではなく、森羅万象さまざまなもののお名前にジャンルの幅を広げました。

そのことで、改めて、日本人はあらゆるもののお名前に善なるメッセージを込めて名づけていることがわかってきました。

そして、これまで以上に、日本人の根源にあるもの、あるいは日本人の原風景が見えるようになってきたという大きな手応えを感じています――本書はこの番組の３冊目の単行本になりますが、人間のお名前についての集大成とするつもりでつくりました。これからの番組にも、４冊目の単行本にも、期待してください。

私も含めて、制作スタッフ一同、これまで以上に強い意気込みで挑んでいくつもりです。

２０１９年１月　古舘伊知郎

3 まえがきにかえて——古舘伊知郎
お名前の大海原から見えてくる日本人の原風景

第1章【知っていると自慢できる名字ウンチク】

12 草彅さん
「彅」には名将・源義家との深い関わりが秘められていた！
14 羽生さん
国民栄誉賞受賞の天才二人。名字の読み方が違う深い理由！
18 藤井さん
朝鮮半島の王族の末裔から始まったお名前だった！
22 錦織さん
「錦織部」から「部」が取れた名字だった!?
24 丘田さん
岡田さんに比べ、レアな理由はどこにある？
28 五十嵐さん
もともと「いからし」と読む名字だった!?
31 高田さん
広島県では「たかたさん」が約8割な理由は？
33 菊地さん
菊地さんと、菊池さん、なぜ2つあるのか？
36 三浦さん
「三」は神聖であることを意味していた！
39 赤木さん
日本人にとって赤、青、黒、白は特別な色だった！
42 青木さん
源頼朝が落ち延びたとき、名づけ親になった!?
45 望月さん
日本人の月への思いが込められていた！

第2章 【超レア名字の謎を深掘り】

48 **勝俣さん** なぜ御殿場市周辺に集中しているのか？

52 **鰭崎さん** 源頼朝に献上した鯛が名字の由来だった!?

54 **細字さん** 豊臣秀吉から贈られた超レア名字！

56 **砂糖元さん** ご先祖さまは宮崎県で最初に砂糖を製造！

58 **出牛さん** 隠れキリシタンがご先祖さまだった!?

61 **返脚さん** ご先祖さまが何かを返却したことが名字の由来!?

65 **泊りさん** 送りがなに地名の歴史が残されていた！

68 **地切さん** ご先祖さまの後世への警告が込められた名字！

70 **辺銀さん** 21世紀に生まれた最新超レア名字！

72 **桂馬さん** 将棋の駒をなぜ名字にしたのか？

75 **鰻さん** 超珍名と思いきや、もともと発祥の地では超メジャー!?

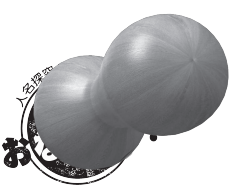
78 **本仮屋さん** 鹿児島県発祥の由緒正しい名字！

80 **悪虫さん** 唯一無二のお名前になった理由とは？

83 **指吸さん** 「正しい生き方をせよ」というメッセージが込められていた！

88 **禿さん** 「禿」を「はげ」と読まない深い理由とは？

90 **舌さん** 超絶怒濤の由緒ある名字！



91 音揃さん　朝鮮出兵の戦功で豊臣秀吉から賜った名字！
93 干鰯谷さん　谷がつく名字には浪花の商人魂が込められていた！
96 目細さん　針穴のかたちに名字の由来のヒミツがあった！
99 冷泉さん　藤原一族が京都の通りの名前をつけたのが由来！

第3章【超難読名字の謎を大解明】

104 毒島さん　「毒」をなぜブスと読むのか？
107 目さん　超絶難読なのは律令制の官職に由来するため！
109 笹島さん　「笹」とは「かご」や「ざる」の方言だった！
114 圷さん　茨城県発祥の方言名字、方言漢字の代表選手！
116 上別府さん　「うえんびゅう」「かんびゅう」「びふ」とも読む理由とは？
118 五六さん　謎の読み方は将棋がカギだった！
120 四十物さん　「あいもの」と読む吃驚仰天の由来！
123 樗木さん　古代中国の思想家、荘子の哲学が秘められていた！

第4章【超びっくりな由来を持つ名字】

128 鬼さん　豊臣秀吉から「鬼」のように強いと賜った名字！

129 **鼻さん**
鼻のつく名字が意外と多い理由とは？

131 **爪さん**
カラダの爪ではなかった!? 驚天動地のその由来！

132 **川尻さん**
カラダ名字の由来はほとんどが地形、地名だった！

134 **脇田さん**
ご先祖さまはパイオニア！ 脇役でなく、主役を張れる名字だった!?

136 **海部さん**
飛鳥時代、部のつく名字が9割だった!?

138 **服部さん**
もともと絹糸から布を織っていた機織部さんだった!?

140 **中村さん**
村がつく名字には、権力に抗い、時代を切り拓いた歴史が秘められていた！

142 **吉村さん**
「吉」でなく「葦」が由来という説も!?

144 **木村さん**
木が多い村が由来ではない!? 番組による新説！

149 **幸福さん**
つらい思い、明日への切実な希望が込められた名字だった！

152 **特別対談**
古舘伊知郎×赤木野々花
お名前、名字の謎を探ることで、日本人をより深く知ることができる！

157 **あとがきにかえて**——NHKエデュケーショナル チーフ・プロデューサー 亀山 暁
ご先祖さまたちがお名前に込めた〝いいこと〟を後世に伝えていきたい

［装幀・本文デザイン］井上則人・坂根 舞（井上則人デザイン事務所）
［構成・編集］羽柴重文（株式会社BIOS）［編集協力］布川 剛
［撮影］五十嵐和博 ［校正］奥山温子 藤村希和 ［図版］タナカデザイン

（本書所収放送回）

【色のつく名字】2017年6月29日放送
【部のつく名字】2017年９月7日放送
【超レア名字】2017年9月21日放送
【お名前相談室ＳＰ１】2017年10月5日放送
【お名前相談室ＳＰ２】2017年10月19日放送
【おいしそうな名字】2017年11月9日放送
【数字のつく名字】2017年11月16日
【村がつく名字】2017年11月30日放送
【カラダ名字】2017年12月7日放送
【めでたい名字】2018年1月4日放送
【大阪名字】2018年1月18日放送
【お名前相談室ＳＰ３】2018年2月1日放送
【歴史のスターが付けた名字サマ】2018年3月15日放送
【朝ドラヒロイン おなまえのナゾ】2018年４月12日放送
【将棋のおなまえ大ギモン！】2018年5月31日放送
【クイズ王も読めない超難読名字】2018年６月7日放送
【望月はナゼ"もちづき"？】2018年7月5日放送
【船の○○丸の謎】2018年9月13日放送
【名乗りづらい名字】2018年10月4日放送
【京都ＳＰ　みやびな名字】2018年11月29日放送

『日本人のおなまえっ！』（ＮＨＫ総合テレビ木曜午後７時30分放送、火曜午前０時20分再放送）

（番組スタッフ）

［出　　演］　古舘伊知郎　赤木野々花（ＮＨＫアナウンサー）　澤部 佑　宮崎 美子　森岡 浩
［監　　修］　森岡 浩（名字研究家）　笹原宏之（日本語学者･漢字学者）

［リサーチャー］　今泉由香　岡 友紀子　宗村達　的野円香　渋井ゆりこ　河合紗希子
［ＣＧ制作］　鈴木 哲（スガタデザイン研究所）
［美術デザイン］　清 絵里子

［構　　成］　樋口卓治　山本宏章
［ディレクター］　赤木直幸　光原朋秀　有本 誠　高見大樹　三日市篤史　町田 亘　池上祐生
木村和穂　増當一也　勝村武史　原田芙有子　岡崎明子　金井昭夫　阿久津万里
橋本真帆　八木下雄介　坂口春奈　中村拓史　井上国英　神戸一虎　坂井信二郎
［総合演出］　田中涼太
［プロデューサー］　糸瀬昭仁　一條淑江　鈴木伸嘉
［制作統括］　水高 満　松岡大介　国見太郎　亀山 暁

（取材協力･資料提供）

古舘プロジェクト　草彅稲太郎　草彅郁雄　種子島開発総合センター　埴生神社　宮城県地名研究会　葛井寺
奈良文化財研究所　日本地名研究所　五十嵐神社　菊池市教育委員会　海南神社　貴船神社（神奈川県）
佐久市立望月歴史民俗資料館　大伴神社　清浄寺　牧之原市教育委員会　鋸南町役場　細字印判店
氷見市立博物館　泊り農場　二戸市立二戸歴史民俗資料館　長岡市役所寺泊支所　明聖寺　八戸市博物館
堺市博物館　大安寺　ゆびすいグループ　観正寺　善正寺　如来寺　貴船神社（京都府）　片桐棲龍堂
NPO法人泉州佐野にぎわい本舗　上善寺　目細八郎兵衛商店　冷泉為人　京都市歴史資料館
北里大学東洋医学総合研究所　三重県立斎宮歴史博物館　越中八尾観光協会　四十物昆布　石川県立歴史博物館
尾粂商店　薩摩川内市歴史資料館　加古川市役所　東近江市蒲生コミュニティセンター

第1章

知っていると自慢できる名字ウンチク

【草彅さん】

「彅」には名将・源義家との
深い関わりが秘められていた！

元ＳＭＡＰで『ブラタモリ』のナレーションや俳優、歌手として活躍する草彅剛さん。草彅さんがいるから普通に**草彅**さんと読めるが、超難読名字であり、超レアな名字でもある。そして、その由来は……源氏の名将、源義家に授けられた名字なのだ。

秋田県仙北市。ここには国指定重要文化財の「草彅家住宅」がある。

「建てられたのは天保年間ですので、１８０年は経っていると思います。言い伝えでは、源氏の源義家がこちらにいらしたときにお世話をして、その功績で草彅姓をいただいたことが名字の由来です」（草彅家住宅・草彅稲太郎さん）

源義家は源頼朝の四代前の武将。頼朝の祖父、源為義のさらに祖父だ。平安時代後期、陸奥国の豪族、安倍氏が反乱を起こし、前九年の役が勃発した。このとき、義家はこの地を訪れたのだ。実際、草彅家の本家、草彅郁雄さんの家には、義家の鎧と伝わる切れ端が残っている。さらに、草彅本家に残る江戸時代後期の古文書にはご先祖さまの功績が記されている。

「山道を案内していたときのこと。草がたいへん深かったので、長刀を給わり、草をなぎ払

源義家は『日本人のおなまえっ！②』「Part 5　名門・あべ一族の栄枯盛衰」、「"あべさん"にはなぜ、いくつもの書き方があるのか？」にも登場している

い、山越えできた。それで、草彅と名乗ることを許されたと書いてあります」（草彅郁雄さん）

草彅本家には「彅」という漢字が使われる理由も伝わっていた。「弓」は義家の代名詞。神の如くと評される腕前だったとされる。

草彅さんのご先祖さまはその義家の「前」で「刀」で草をなぎ払っていた――「彅」という漢字の部首「弓」「前」「刀」で説明がつく。

草彅さんの「彅」は源義家との深い関係を示していたのだ。

ちなみに、漢和辞典で「彅」を調べてみると、名字の「草彅」しか用例がなかった。オンリーワンの「彅」。覚えづらい漢字だが、「弓」「前」「刀」という部首の由来を知れば、記憶に残ること、間違いないだろう。

「いままで、草彅の由来を知りませんでした。本当にすごい。鳥肌が立つ思いがしました。『彅』という漢字を含めて、いろいろ疑問に思っていたことが、一瞬にして腑に落ちましたよ。それにしても、義家さんはすごいネーミングセンスだと思います。それに、ご先祖さまは他人のために草を刈ってあげていた……いま、自分のなかに優しい気持ちが起きてきました（笑）」（草彅剛さん）

◆……【歴史のスターが付けた名字サマ】

【羽生さん】

国民栄誉賞受賞の天才二人。
名字の読み方が違う深い理由！

２０１８年２月13日、将棋の羽生善治九段が前人未到の「永世七冠」という快挙で国民栄誉賞を受賞した。４日後の２月17日、羽生結弦選手が平昌五輪のフィギュアスケート男子シングルで二連覇を達成。７月には、羽生選手も国民栄誉賞を受けた――２０１８年は将棋界、フィギュアスケート界の不世出の天才、二人の羽生さんが国民栄誉賞を獲得したわけだが、**羽生**さん、**羽生**さんと読み方が違う。名字研究家の森岡浩さんはこう語る。

「羽生さんと羽生さんは先祖が同じというような、直接の関係はありません。分布としては、羽生さんは鹿児島県が圧倒的に多い。それに対し、羽生さんは東北、関東から新潟県と広い範囲に住んでいますが、比較的、宮城県に多いんです」

羽生さんは鹿児島でも種子島と屋久島に集中している。羽生九段の祖父も種子島出身。また、種子島に羽生姓のルーツがあると言われる。

一方、羽生さんは宮城県でもとくに登米市に多いが、羽生選手の祖父は同市出身。父の秀利さんは同市で生まれ育った。

そこで、種子島と宮城県を取材、羽生さんと羽生さんの読み方の謎に迫ることにした。

種子島には現在、およそ70世帯の羽生さんが暮らしているという。

「種子島にお殿様がいて、先祖は誘われて家老をやっていたそうです。この島に来て以来、ずっとここに住んでいると聞いています」（羽生俊二さん）

羽生一族は代々、家老を務めた由緒ある家柄だったのだ。

種子島の島主、種子島家の居城は赤尾木城（種子島城）。羽生俊二さんの家から赤尾木城へ通う道は石段になっていて、いまも残っている。

種子島開発総合センターに羽生一族に関する古文書類が保管されていた。そのなかの『羽生氏家譜』には「羽生の浦に着いたことで羽生を称した」と記されている。学問の神様、菅原道真が九州に左遷されたとき、海路で嵐に遭い、羽生の浦に漂着。その後、羽生姓を名乗った菅原一族の一部が羽生さんの始まりだとされている。

福岡県中間市。同市垣生には埴生神社というお社がある。埴生が「はぶ」という音に宛てられた最初の漢字だという――ここに「羽生」の由来が秘められているのだ。

「『埴』は埴輪や土器などをつくる土のことです。この地はそういう赤土の粘土がたくさん採れるところ、『埴が出る』ところという意味で、最初、埴生という地名がつけられました。それが、だんだんと言いやすいかたちに変わっていって、現在の『はぶ』という言い方になっ

たんだと思います」（埴生神社・千々和公直宮司）

「はぶ」とは、埴輪や土器をつくるための赤い粘土が採れる場所のことだったのだ。

「当神社には馬をかたどった土像が残っています。詳細は不明ですが、何らかの祭祀が行われるとき、神様にお祀りをされていたのかと思われます」（千々和公直宮司）

同じ場所から、古代人が祭礼に使った馬の土像のほか、大量の土器なども見つかっている。古墳時代後期から、この周辺で土偶や土器がつくられていたと考えられる。

それでは、羽生さんは、どういう由来を持っているのだろうか？

宮城県地名研究会の太宰幸子会長はこう語る。

「『はに』は赤っぽい粘土のことで、『う』は採れるところを意味します。そこから、粘土などが採れるところを『はにゅう』と言うんです」

なんと「はにゅう」もまた、赤い粘土が採れる場所のことだった。

宮城県のほぼ中央に位置する黒川郡大郷町には、羽生という地名がある。しかも、ここでも近くの古墳から、大量の埴輪や土器が出土していた。

「これは茶筒のようにすとんとしているので、円筒埴輪と呼ばれているんです。儀式的なことを行うための道具だったと考えられています」（太宰幸子会長）

羽生さんと羽生さん、２つの名字は赤い粘土でつながった。

鹿児島県の離島と宮城県の中央、遠く離れたところで生まれた2つの名字は、なぜ同じ赤い粘土が名字の由来になったのだろうか？　古墳時代を専門とする考古学者、明治大学文学部・若狭徹准教授は、謎を解く鍵は埴輪、土器の色にあると言う。

「埴土（はにつち）は赤い粘土のことですが、赤には神聖なものという観念がある。ですから、埴土でつくった埴輪、土器の『赤』の持つ神秘性は非常に強いと思います」

古代人は「赤」を神聖だと感じていた。そして、赤い粘土でつくられた埴輪や土器には神秘的な力が宿ると考えて、儀礼や神事に使っていたのだ。

「土を採って、土器をつくり、そして神を祀って、支配する地域を栄えさせることが、豪族の使命ですからね。豪族たちにとって、赤い粘土が採れる場所はすごく重要なところだったと思います」（若狭徹准教授）

『日本書紀』には、神聖な山から採った埴土で土器をつくり、神を祀ったため、天下を治めることができたと記されている。赤い粘土、埴土が天下を治めるほどのパワーを秘めていたからこそ、採れる場所の地名が名字にまでなっていったわけだ。

将棋界、フィギュアスケート界で超人的な力を発揮する、羽生（はぶ）九段と羽生（はにゅう）選手。読み方は違えども、羽生さんという名字は不世出の天才二人にふさわしいものだった。

羽生善治九段に取材結果を番組が伝えると、返事をいただくことができた。

大郷町羽生の羽生天神社には、飛鳥時代、大和朝廷に羽毛を献上していて「羽を生む」＝羽生という地名になったという説も伝えられている

《まったく知らない内容ばかりで、とても興味深いです。羽生さんとも共通点が見つかり、親近感を覚えました。　羽生善治》

◆‥‥【将棋のおなまえ大ギモン！】

【藤井さん】

朝鮮半島の王族の末裔から
始まったお名前だった！

２０１８年、将棋の藤井聡太七段の勢いはまったく止まらなかった。

５月に七段昇段（15歳９か月）、７月に通算１００局（16歳０か月）、12月に通算１００勝（16歳４か月）と、３つの最年少記録を更新。これまでの四段昇段（14歳２か月）、初勝利（14歳５か月）、通算50勝（15歳４か月）、一般棋戦優勝（15歳６か月）、全棋士参加棋戦優勝（15歳６か月）、六段昇段（15歳６か月）とあわせ、９つの最年少記録を持つ（２０１８年12月現在）。また、10月に第49期新人王に輝いた――現役高校生プロ棋士は、空前絶後の快進撃を続けている。

「藤井聡太さんの『ふじい』という名字には、おもしろい話があるんです」

そう語るのは、番組のご意見番、名字研究家の森岡浩さんだ。

「**藤井**さんという名字は山陽地方を中心として、全国にまんべんなく分布しています。ただ、『井』がつく名字は井戸が由来と思いがちですが、実は井戸だけではないんです。用水路や水汲み場など、水をもらえるところはすべて『井』なんです。藤井さんという名字の『井』も井戸ではなく、藤は植物の藤ですので、ルーツとしては、藤の花が咲いている用水路の近くに住んでいたという。さらに、古代までふじいさんという名字を調べていくと、違った風景が見えてくるはずです」（森岡浩さん）

大阪府大阪市。初めて「ふじい」を名乗った人の子孫がいるという。

ところが……藤井さんとは書かない。「葛井」と書いて、「ふじい」と読む**葛井**（ふじい）さんだ。

「『ふじい』とは、絶対に読んでくれなくて、かついさん、くずいさんとか、よく言われますね。ただ、勧誘、セールスの電話がかかってきたとき、『かついさんですか？』と聞かれて『違います』と答えられるので、撃退にはなります（笑）」（葛井（ふじい）由利子さん）

ただ、**葛井**（くずい）さんという名字もあるから、ややこしい。

元祖ふじいさんはなぜ「葛井（ふじい）」だったのだろうか？

古代史が専門の関西学院大学文学部・中西康裕教授は語る。

「古代日本では、『藤』と『葛』は混用されていたんです」

たとえば、平安時代初期に編纂された『続日本紀』には「葛井河守」と記されている人物が、平城宮から出土した木簡では「藤井川守」と表記されているという。

「葛藤という言葉がありますように、葛と藤は蔦が絡み合う植物として混用されていたので、一つの熟語になっているんです」（中西康裕教授）

それでは、「葛」を使う、元祖ふじいさんとはどんな一族だったのだろうか？

奈良時代、葛井一族が創建に関わったとされる寺院が大阪府にある。

葛井寺。お寺があるのは藤井寺市藤井寺。

この寺の本尊は、葛井一族のために天皇が命じてつくらせた千手観音像だ。

「天平時代の傑作として、このお寺で１３００年、お祀りさせていただいております。実際に１０００本以上の手を持つのは、日本でこの方だけなんですよ。もちろん、国宝になっています」（葛井寺・森快隆住職）

葛井一族がこんな素晴らしいお宝を持つことができた理由は……。

「朝鮮半島の百済からの渡来人。百済の王族だったんです」（森快隆住職）

葛井一族はもともと朝鮮半島の王族。

子孫が日本に渡り、政治の中心で大活躍していたのだ。

「日本で最初の体系的な法典『大宝律令』の選定で中心になった人物は、この一族の人間だ

藤井寺市にはプロ野球、近鉄バファローズの本拠地、藤井寺球場があった。1989 年の日本シリーズは近鉄３連勝から巨人４連勝で逆転優勝。同球場で行われた唯一の日本シリーズだった

とされています」（中西康裕教授）

天皇の側近などとして、他にも天才、英才、秀才を一族から多数輩出。その功績として授けられたのが、葛井姓だった。

さらに、このお名前には特別な意味が込められているという。

「『葛』は『不死』に通じますので、死なないとか、あるいは長寿である。生命力のようなものを思わせます」（中西康裕教授）

葛井一族のなかには、藤井聡太七段のような、図抜けた若き天才もいた。

葛井真成。真成は超エリートだけが選抜された遣唐使に19歳の若さで抜擢されている。

彼の才能は当時の最先端国家、唐の人々をも驚かせたという。真成は40歳前に中国で亡くなり、西安に眠るが、墓誌には優秀な人物で皇帝は死を悼み、尚衣奉御という官職を贈ったと刻まれている。また、皇帝は国費で盛大な葬儀をしたという。

葛井真成は若くして亡くなったが、長生きをしていれば、唐や日本で並ぶ者のいない官僚として大活躍していたに違いない——藤井聡太七段は、そんな葛井一族から始まった名字を持っているのだ。

◆……【将棋のおなまえ大ギモン！】

【錦織さん】

「錦織部」から「部」が取れた名字だった!?

部のつく名字は飛鳥時代に生まれ、栄華を誇った（136ページ参照）。少なくとも半数以上の庶民は、部のつくお名前を持っていたのだが、いまとなっては……むしろ、少数派と言ってもいい。部のつく名字が衰退していったのはなぜなのだろうか？

後述のように、奈良時代まで、部のつくお名前の人たちは決められた職種に就いており、彼らを管理していたのは貴族たちだった。ところが、一部の貴族が力を持ってきて、覇権を握ろうとした。企業でいえば派閥争いが起こり、いまで言う天皇家は力をつけてきた有力貴族に危機感を持つようになったと考えられる。

そこで……有力貴族の勢力を削ぐためにある構造改革が断行されたのだ。貴族たちの力の源泉は支配下の職能集団などにあった。部のつくお名前を持った人たちのことだ。奈良文化財研究所史料研究室・馬場基室長はこう言う。

「そこで、縦割りを解体しようということになったんです。○○部はどの貴族の支配下にあるという縦割りではなくて、いまで言う天皇家のもと、すべての人がこの国の民として暮ら

していこうということです。それで、どの貴族の支配下にあるのかを示していた、○○部を名乗ることの意味が失われて、部の文字が省略されていったんです」（馬場基室長）

ただ、もともと○○部は人間のお名前だったのだが、その人たちが住んでいる土地のお名前にもなっていた。つまり、地名として部のつく名字は名残をとどめたのだ。

「ですから、矢部さんにしても、ご先祖さまが矢をつくっていたのではなく、矢部という土地に住んでいたことが由来になって矢部姓になった人もいるんです」（馬場基室長）

部がつくお名前は地名になったことで、さらに名字から「部」が外されていったのだ。古代の地名に詳しい、日本地名研究所の関和彦所長は語る。

「713年に『諸国郡郷名著好字令（好字令、好字二文字化令）』が発布されました。この勅令は『いい意味の漢字二文字で地名をつけよ』というもの。元明天皇が唐に憧れて、長安や洛陽のように日本の地名を変えようとしたのがきっかけです。好字二文字化令で3文字以上だった地名が2文字に変えられていった。その流れが生きているので、現在も2文字の地名が多いんです。結果、人名もその影響を受けました」

久米部さんが**久米**さん、**玉造部**さんが**玉造**さん、**春日部**さんが**春日**さん、**犬養部**さんが**犬養**さん……2文字にするために、部が省かれていった。世界的なテニスプレイヤー、錦織圭選手の**錦織**さんも、もともとは**錦織部**さんという3文字の名字だった――日本人のお名前

錦織は「にしこり」「にしごり」だけでなく、「にしこおり」「にしごおり」「にしきこうり」「にしきおり」「にしきお」「にしおり」などとも読む。テノール歌手の錦織健さんの本名は「にしこおり」だが、正しく読まれないため「にしきおり」としているという

は地名由来が多いため、部のつく名字は激減してしまったのだ。

「錦、綾を織っていた錦織部では、『織』を省いて、部を残すパターンもあります。**錦部**さんの読みも『にしごり』『にしこり』と読むんですけれど、部を省いたほうが読みやすい。ですから、当然、部のない名字のほうが多いんです」（馬場基室長）

◆‥‥【部のつく名字】

【丘田さん】

岡田さんに比べ、レアな理由はどこにある？

岡田さん、**岡村**さん、**岡本**さんはよく聞く名字だ。ところが、**丘田**さん、**丘村**さん、**丘本**さんが身近にいる方は珍しいだろう。

「岡田さんは全国で38万人くらいいると思います。それに対して、丘田さんは関西を中心にたぶん10世帯ほどです」（森岡浩さん）

さらに地名でも、「岡」と「丘」には使い分けがある。「岡」は岡山、福岡、静岡、盛岡、長岡、亀岡、富岡、豊岡など、県や市のお名前に広く使われているが、「丘」は東京の自由

が丘や神奈川の希望ケ丘など、ニュータウン以外の名前ではほとんど見かけない。いったいなぜ「岡」と「丘」にこんな使い分けが生まれたのか？

この謎を解くカギが、「オカ田さんがオカを登る」という文章にあるという。

2つの「オカ」をどちらの漢字で書くのか、東京・巣鴨（すがも）で街頭インタビューをしてみた。

60代女性3人は、ともに「岡田さんが丘を登る」だった。70代男性も「岡田さんが丘を登る」。

「オカを登るには、古賀政男（こがまさお）先生作曲の『丘を越えて』の印象がありますからね」とのこと。

ところが、さらに年代をあげて、80代の女性に聞いてみると、驚きの結果が！

なんと、「岡田さんが岡を登る」と書くという。

他にも87歳女性、84歳女性、82歳女性、79歳男性が「岡田さんが岡を登る」。

どうやら80歳前後を境にして、地形のオカも「岡」と書く人が多いようだ。

なぜ、年代によって、このような違いが出るのだろうか？　戦前に出版された本で検証してみると……文豪・永井荷風（ながいかふう）の随筆『日和下駄（ひよりげた）』（大正4年）に「東都の西郊目黒に夕日ケ岡というがあり」とある（「第十一　夕陽　附富士眺望」）。「夕日ケ丘」でなく、「夕日ケ岡」と記されているのだ。さらに、昭和18年の国語の教科書にも「岡を越え」（『初等科國語　五』）とあった。漢字の歴史に詳しい、早稲田大学社会科学部・笹原宏之（ささはらひろゆき）教授は語る。

「奈良時代から戦後すぐまでは、地形のオカも岡という漢字がずっと主流だったんです」

実は、日本人が地形や地名に「岡」を使い始めたのは奈良時代のこと。『古事記』にも伏見岡ほか、「岡」がつく地名がでてくる。「丘」はどんな意味で使われてきたのだろうか？

「丘陵の『丘』は多くはお墓という意味で使われてきました。土を盛ってつくったお墓のことで、小ぶりな『オカ』のことも意味します」（笹原宏之教授）

つまり、日本人はもともと普通のオカには「岡」という漢字を宛て、１２００年以上、地名にも名字にも「岡」を使ってきたのだ。静岡や福岡など多くの地名に「岡」を使うのはそのためなのだが……。

「ところが、戦後、使う漢字を制限しようと、『当用漢字』が決められました」（笹原宏之教授）

第二次世界大戦後、漢字は数が多すぎて学ぶのがむずかしいとされて、制限または廃止すべきという意見が強まった。そして、１９４６年、日常生活や学校で使う漢字は、わずか１８５０字に制限されることになったのだ。

「当用漢字には、訓読みしかない漢字はなるべく採用しないという基本方針がありました。そのときに、『岡』は除外されてしまったんです」（笹原宏之教授）

「丘」の訓読みは「おか」、音読みは「きゅう」。「岡」にも「こう」という音読みがあるのだが、使われることは滅多にない。そのため、これ以降、「岡」は当用漢字から外され、学校で教わる地形や地名のオカは「丘」に統一されていった。

70代までの世代が「丘を登る」と書くのは、この教育方針の影響なのだ。さらに、高度経済成長期に造成された新興住宅地、団地に緑ヶ丘、聖蹟桜ヶ丘（せいせきさくらがおか）、希望ヶ丘、ひばりが丘など、新時代の息吹が感じられる「丘」がモダンな生活スタイルの象徴として、定着していった。

「『丘』のイメージは近代的で、明るくて、軽い。音読み『きゅう』の『丘』のイメージをうまく活用し、町名にするところが多かったんです」（地名研究家、筑波大学・谷川彰英名誉教授）

当用漢字と地名、町名の丘ブームによって、いま私たちが常識だと考えている「オカ」の意味は、この70年で大きく変わったわけだ。

ところで、当用漢字から外れ、学校の国語の授業で長らく取り上げられなかった「岡」に、最近になって変化が起きている。２０１２年度から中学校で教えられるようになり、さらに、小学校でも２０１８年４月から教えられているのだ。地理では岡山県、福岡県、静岡県という県名を教えているし、名字にも普通に使われている。

70年経って、やっと、「岡」も日の目を見ることになったわけだ。

「当用漢字に不都合が生じてきたので、後継として１９８１年に１９４５字の常用漢字が決められました。ただ、ここにも『岡』は入らず、２０１０年に改められた２１３６字の改定常用漢字でやっと加えられたんです」（笹原宏之教授）

◆‥‥【クイズ王も読めない超難読名字】

第2章

超レア名字の謎を深掘り

【鰭崎さん】

源頼朝に献上した鯛が名字の由来だった!?

源頼朝は前述のように、青木さんの名づけの親（42ページ参照）。そして、落ち延びるなかで世話になった人たちへ、さまざまな名字を授けていったとされる。そのなかには超レア名字が数多く、子孫の方々は自分の名字に誇りを持っている。

たとえば、**御守**（おんもり）さん。真鶴港で釣り船の船長をしている御守紀幸さんは語る。

「うちの先祖は、頼朝公が『しとどの窟』という洞窟に隠れているとき、敵がいないか見張っていた、お守りしていたと聞いています」（御守紀幸さん）

ご先祖さまは頼朝を守り、御守紀幸さんは乗客を守る仕事をしているわけだ。レア名字ではないが、**五味**（ごみ）さんも頼朝が下賜した名字。ご先祖さまが頼朝に食事を供したところ、さまざまな味が調和して、美味しかったことから、五味姓を授かったという。

その後、頼朝は千葉の豪族に協力を求めて、真鶴港から千葉県の房総半島に向けて出航。安房国平北郡猟島（あわのくにへいほくぐうりょうしま）（現・千葉県安房郡鋸南町竜島地区（あわぐんきょなんまちりゅうしま））へ上陸した。この地で頼朝は現地の住民たちから饗応を受け、いくつかの名字を授けたとされる。

頼朝の房総上陸は『吾妻鏡』に「平北郡猟島」と記されているが、『平家物語』に洲崎（すのさき）半島（現・館山市洲崎）とあるように異説もある

ある家では頼朝に鯛を献上した。その鯛が新鮮で、鰭が反り返って立派なものだということで、その家は**鰭崎**さんという名字を授かっている。また、ある家では珍しい生の貝を頼朝にごちそうしたところ、**生貝**さんを下賜されたという。

さらに、頼朝とともに真鶴港から船頭として乗船していた3人もこの地で暮らし、頼朝は舟の後ろ、艫で漕いでいた者に**艫居**さん、さらに、**間**さん、**渡**さんという名字を与えたという。その他、浜辺の柴をお茶代わりにして供した家に**柴本**さん、庭に菊の花が咲いていた家に**菊間**さん、松が繁っていた家に**松山**さん、由来は不明なものの**久保田**さん、**中山**さんも頼朝が下賜した名字とされる。現在、鋸南町にこの姓の家は残っていないが、**左右加**さんも頼朝が授けたものだ。上陸後、竜島の神明神社で源氏再興を祈願したのだが、この神社の神主に左右加さんと名づけている。「左」「右」から軍勢が加わるようにという願いが命名の由来だ。

このように、頼朝は鋸南町の人々に数多くの名字を授けている。この地から源氏を再興させていこうという、特別な思いがあったのだろう。

鋸南町では毎年10月頃、「頼朝まつり」を開催している。

「頼朝公が授けてくれた名字は私たちにとって地域の宝です。ですから、イベントとして盛り上げていこうと、頑張っているところです」（鋸南町役場・渡邉みゆきさん）

◆……【歴史のスターが付けた名字サマ】

【細字さん】

豊臣秀吉から贈られた超レア名字！

加賀百万石の城下町、金沢。市街・尾張町は商業の中心地として、長い歴史を持つ。町名の由来は前田利家が金沢入城の際、利家に従った御用商人や足軽たちがここに居住したからと伝わる。尾張町商店街には利家とともに尾張から移ってきた老舗が軒を連ねるが、なかでもレトロモダンな外観の細字印判店は日本最古の印判店とされる。

当主は代々、細字左平を襲名していて、現在は12代目。店内には「御用」という看板が掲げられている。

「うちだけが加賀藩で御用印章師として許可をいただいて、代々、ハンコ屋をしとったという。名前の通り、いまでも細々とやっております（笑）」（12代目・細字左平さん）

細字さんという名字の由来について、細字左平さんはこう続ける。

「安土桃山時代、全国から職人さん約１００名を京都に集めまして、１年間修業させて、そのなかで腕のいい職人３人に細字姓を授けたと聞いております」

当時、日本にポルトガルの印章を押す慣習が入ってきた。そこで、豊臣秀吉は印判師たち

にポルトガル人から彫刻技術を習わせたという（織田信長だったという説もある）。

「当時、日本に細かいものを彫る技術はなかったそうです。一方、ヨーロッパでは指輪などに非常に細かい細工をする技術があった。それで、ポルトガル人の先生がヨーロッパの先端技術を教えてくれたそうです」（細字左平さん）

その3人のうちの1人が細字印判店の初代・細字左平。ちなみに、細字さんの1人は江戸へ出たといわれるがいまとなっては店はなく、もう1人は大阪に細字孔文堂印舗という店を構えていたが、その後、京都へ移って、いまも中京区で営業を続けている。

初代・細字左平は前田利家公と同郷だったため、1588年に御用印判師として迎えられて、尾張町の土地を拝領、名字帯刀を許されたという。細字左平の技術は代々高く評価され、藩札の原版作成にも携わったとされるほどだ。

「こんな細かいのは、私には彫れない。これが本当の細字でしょうね」（細字左平さん）

細い字が彫れたから、細字になったのだろうか？

「細字と読むようになったのは明治以降で、もともとは『ささじ』と読んでいたそうなんですよ」（細字左平さん）

なぜ細字と読んでいたのか？　早稲田大学社会科学部・笹原宏之教授は言う。

「『細』には『ささ』という訓読みがあり、小さいという意味もあります。細い文字が彫れ

たということより、精密に小さい文字が彫れた――読み方から考えると、そういう意味合いが強く込められていたのかもしれません」

安土桃山時代まで、書類を自分のものと証明するのに、サインを絵のようにデザインした花押（かおう）を使うことがメインだった。だが、戦国時代以降、大名の領地の拡大や紙の普及で、徐々にハンコが使われていく。

「民衆の管理をしていくうえで、ハンコは重要度を増していった。秀吉はそうした後世の展開を見越していて、非常に先見の明があります。ある意味、イノベーターだった秀吉の側面が見えてくる気がします」（國學院大學文学部・矢部健太郎教授）

商取引の発達などで、江戸時代初期には、ハンコが庶民へと広まっていく。秀吉は現代のハンコ社会への道を開いたともいえる――細字さんという名字には、秀吉の思い、そして、日本のハンコの歴史が刻印されているのだ。

◆……【歴史のスターが付けた名字サマ】

【砂糖元さん】

ご先祖さまは宮崎県で
最初に砂糖を製造！

調味料の王様、砂糖。もともと、奈良時代に中国から伝えられ、正倉院の宝物『種々薬帳』に「蔗糖」と記載されていたように、薬として珍重されていた。甘味料として使われるようになったのは室町時代からだが、中国からの舶来品だったため、貴族や武士の一部しか口にすることができなかった。ところが、江戸時代になると、琉球などで国産化が始まり、ようやく一般化するようになっていく。

宮崎県に**砂糖元**さん、**砂糖**さんという名字がある。どちらも、県内で数軒という超レア名字。砂糖元さんのご先祖さまは、宮崎県で最初に砂糖をつくった人だという。日南市伊比井に住む、子孫の砂糖元博文さんは言う。

「江戸時代後期の文化年間（１８０４～１８１８年）、先祖の兵次郎が今井浜に打ち上げられた武士を助けて、お礼としてサトウキビをもらったことがきっかけだったと聞いています」

『宮崎県近世社会経済史』によると、その武士は薩摩藩からの脱藩者。当時、薩摩藩ではサトウキビを持ち出し厳禁としていた。しかし、武士は世話になった兵次郎に杖代わりに使っていたサトウキビを贈り、砂糖づくりの秘訣まで伝えたという。その後、兵次郎は精糖事業を成功させて、伊比井は国内有数の黒糖の主産地になった。その功績によって、飫肥藩（宮崎県南部）から砂糖元姓を授かったという。

一方、砂糖さんの由来は……日南市星倉の砂糖スエオさんは言う。

「ご先祖は代々、黒砂糖づくりをしていたんですが、殿様から地域一番の作り手だとお褒めにあずかったそうなんです。そのとき、褒美は砂糖姓か大島がいいかと聞かれたそうなんですけれど……」

大島とは宮崎県の東海上、日向灘で最大の島。しかし、砂糖さんのご先祖さまは、大島でなく、名字を授かることを選んだのだ。それだけ、自分たちの仕事に誇りをもっていたのだろう。

「調味料の名前がついた名字としては、岩手県の**味噌作**さん、三重県の**味噌井**さん、石川県の**味噌山**さん、千葉県の**醤油**さん、富山県の**酢**さん、福島県、鳥取県の**塩**さんなどがあります。どれも、ご先祖さまが調味料の生産や販売をしていた職業由来です」（森岡浩さん）

◆……【おいしそうな名字】

【出牛さん】

隠れキリシタンがご先祖さまだった!?

出牛さんという超レア名字がある。読み方は普通に「でうし」だ。

「出牛さんは、埼玉県と群馬県の県境附近に集中しています。埼玉県の皆野町に出牛という

地名があるので、そこがルーツだと思います」（森岡浩さん）

埼玉県秩父郡皆野町金沢出牛地区。地名は難読ながら、風光明媚な穏やかな土地に見えるが……。地元の郷土史家、高田哲郎さんは言う。

「山から流れる身馴川は、この岩盤に突き当たって、釣り針状に大きく迂回しています。ヘアピンカーブというか180度曲がっていて、氾濫すると渦巻いて、暴れ川になります」

身馴川の河原へ降りてみると、水面から10mほどの高さまで、大きな丸い川原石が持ち上げられていた。

「『出牛』は川原石や土砂を押し〝出〟す濁流の力強さ、それを〝牛〟にたとえているんです。また、氾濫による被害は、住民にとって心〝憂し〟、困ったことだという思いも込められているんだと思います」（高田哲郎さん）

出牛という地名の由来は「押し出す牛」と「心憂し」。さらに、この地には牛にまつわる伝説が残っている。日本武尊がこの地を訪れたとき、川を渡れずにいたところ、突如、牛が現れて、対岸まで乗せてくれたというのだ。他の地域の〝牛がつく〟地名に伝えられている伝説としても、濁流が襲ってきたとき、赤牛が大木を引いて現れて、大木で堰き止めてくれた。そして、その大木で寺を建てたという――このように、日本では昔から牛は大切な労働力であり、私たちを助けてくれた存在だったわけだ。

『出牛』には、過去の災害を後世に伝えようという思いが込められています。当時、文字を書けなかった地域の一般庶民にとって、伝説や地名でそういう思いを伝えるしかなかったと思うんです。土地への愛着、さらに危険なところだと子孫に伝えたかったという熱い思いを感じます」（高田哲郎さん）

これらとは違う由来も地元には伝わっている――隠れキリシタンが「デウス」に出牛（でうし）と漢字を宛てた地名というものだ。デウスとはポルトガル語でキリスト教の神様のことだ。さらに、隠れキリシタンたちは「十字架」と口にできないので「じゅうし」と言い換えていた。それが出牛（じゅうし）という地名の由来になったとも伝わっているそうだ。

出牛地区の山の麓にある西福寺（さいふくじ）。郷土史家の設楽一三（したらかずみ）さんはこう言う。

「この寺には隠れキリシタン説のある墓があるんです。研究が進んでいないので、はっきりわからないのですが……」

実際、他の墓とは明らかに違い、墓石が空洞になっていて、格子の窓がついている屋根付きの墓だ。そして、同じような家型の墓が10基ほど並んでいる。

出牛地区から北へ10㎞ほどの群馬県藤岡市三波川（さんばがわ）。ここには江戸時代初期、隠れキリシタンとして捕らえられ、獄死した木村利兵衛の墓がある。利兵衛の子孫で現在の木村家当主、木村正徳さんに墓へ案内してもらうと……。西福寺の墓とよく似たかたちをしている。

「格子の窓の一部を手で隠すと、十字が浮かび上がってきます。また、マリア観音の小さな石像が墓から見つかっています」（木村正徳さん）

三波川と県境の神流川（かんながわ）を挟んだ対岸、埼玉県児玉郡神川町（こだまぐんかみかわまち）は「秩父切支丹の里」として知られている。三波川と同時期のキリシタン弾圧を逃れ、ここから出牛地区に逃れた隠れキリシタンがいたという記録も残っているという。出牛という地名が確認できるのは、１７６４年の史料がもっとも古いものだった……確証は得られなかったが、隠れキリシタン説を否定する材料も見つけることはできなかった。今後、研究が進むことを期待したい。

◆……【望月はナゼ〝もちづき〟？】

【返脚さん】

ご先祖さまが何かを返却したことが名字の由来!?

全国に数軒しかいない**返脚**（へんきゃく）さん。どのような由来がある名字なのだろう？

「おそらく、集中している愛媛県で生まれた名字だと思います」（森岡浩さん）

愛媛県松山市に住む返脚守さんに話を聞いてみると……。

「何代か前までは小椋姓だったそうです。昔から、小椋姓は全国の山々で木地師という職業に就いていたと聞いています」

ヒントは木地師という職業にあるのかもしれない。

そこで、滋賀県東近江市へと向かう。同市蛭谷町と君ヶ畑町一帯は木地師発祥の地とされるからだ。そして、いまもこの地域では木地師が働いている。君ヶ畑町の「ろくろ工房君杢」、小椋昭二さんはこう言う。

「ろくろで木を回して、カンナなどで削って丸いお盆をつくっています」

木地師とはろくろを回して刃物で木を削り、お盆やお椀などの木工製品をつくる職人だ。

その歴史は古く、平安時代初期、第55代天皇・文徳天皇の第1皇子、惟喬親王がこの地域に木地師の技術を伝えたという伝承が残っている。

そのため、ここが木地師発祥の地とされているのだ。

その後、木地師たちは日本各地の山々に木を求めて、移住していった。江戸時代になると、庶民の食生活で一汁一菜が一般的になり、木地師がつくる木製器の需要が広がった。

最盛期には、東北から九州まで7000人の木地師がいたとされる。そして、木地師たちは日本全国どこの山々でも、七合目以上は木々を伐採することが許されていたという。

「誰でも木地師という職業に就けるわけではなくて、免許状、許可状みたいなものが必要で

した。それを発行して、全国各地の木地師を統括していたのが、この地域にある筒井神社と大皇器地祖神社という2つの神社だったんです」（木地師研究家、愛知学泉大学・筒井正准教授）

返脚さんのご先祖さまは、ここから免許状をもらって、愛媛県で木地師をしていたわけだ。

ところで、蛭谷町と君ヶ畑町の木地師の方々を訪ねてみると……どこの家にも「小椋」という表札がかかっている。平安時代、この一帯は小椋の庄と呼ばれた。そして、ここから全国に移住した木地師の多くが、小椋姓を名乗っていた。返脚守さんの言うとおり、小椋さんは木地師の名字だったのだ。

では、なぜ返脚さんのご先祖さまは、小椋姓から返脚姓に変えたのだろうか？

「いただいていた小椋姓と免許状をお返ししたからだそうです」（返脚守さん）

明治に入ると、木地師の世界が激変した。日本各地の山を国家が管理するようになり、木地師たちはこれまでのように自由に山に入り、木々を伐採できなくなった。そのため、多くの木地師が廃業を余儀なくされたのだ。

そのとき、返脚さんのご先祖さまは伝統ある職業に区切りをつけるため、木地師の免許状とともに小椋姓も返したようなのだ。

「姓まで返すのは、きわめて稀なケースではないかと思います。当時、この地域の戸長、いまでいう村長が戸籍事務も担当していました。小椋姓を返されて、相談を受けたときに名字

を登録するのにどうしたらいいのかわからず、返却したので『へんきゃく』という名字になったのではないでしょうか？」（筒井正准教授）

返却したから、返脚が名字になった⁉

では、なぜ「却」が「脚」になったのだろう？

「却という漢字は却（しりぞ）くとか、あまりいい意味はありません。しかし、月（にくづき）がつくと、前に進むなどいい意味になる。そこで、字を変えたのかもしれません」（筒井正准教授）

愛媛から東近江までおよそ４５０㎞。その遙かなる道のりを脚を運んで返却したので、「返脚」にしたとも考えられる。

返脚さんは返すという行為が名字の由来になった。同じように、**嘉納**（かのう）さんという名字も「嘉納＝喜んで受け取る」という行為が由来になったとされる。

「嘉納さんのご先祖さまは神戸・御影の沢の水でお酒を造っていて、後醍醐（ごだいご）天皇に献上したところ……ご嘉納されたため、嘉納姓を賜ったという。この言い伝えが残っているのは、菊正宗酒造の嘉納家。当主は嘉納治郎右衛門（じろうえもん）を襲名していますが、８代目嘉納治郎右衛門さんは灘校の設立代表者です」（森岡浩さん）

◆……【お名前相談室ＳＰ３】

日本人のおなまえっ！
日本がわかる名字の謎
ＮＨＫ番組制作班・編　森岡浩・監修

発　行：集英社インターナショナル（発売 集英社）
定　価：1,400円（本体）＋税
発売日：2019年2月5日
ＩＳＢＮ：978-4-7976-7368-5 C0095

ウェブでのご予約・ご注文は こちらにどうぞ！